

令和5年度 第1回運営協議会議事録

開催日：令和5年7月26日(水) 14:00～15:20 於：プレゼンテーションルーム

出席者：【委員（50音順、敬称略）】

岩崎 誠、上田 えりか、岡崎 裕、田中 正視、寺脇 久人、林 洋平

【事務局員】

長岡校長、松原事務長、田中教頭、井内首席、宮武首席

【学校関係者】

各分掌長、学年主任、初任者

1 連絡及び報告事項

(1) 年間行事計画について

- ・新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたことで、行事は平常通りに計画している
- ・体育祭は雨天延期となったが、翌週の月曜日に実施した。
- ・9月末の翔南祭（文化祭）ではPTAもイベントを実施していただける
- ・2年生修学旅行は千葉、東京方面（ディズニーランド）。

(2) 教育庁承認のスクールミッションについて

- ・普通科高校でありながら、30名程度が在籍している専門コース（ハートフルほいくコース）を擁するのが本校の特徴であり、その特徴を強調する内容となっている。

【質疑・応答】

(岡崎氏) 看護コースは看護の専門的な学習内容を学ぶような名称だが、理系という解釈で良いか。

(教頭) その認識で間違いない。ハートフルほいくコースのような専門コースではなく、実際の進路状況を鑑み、特徴を出すために意図的に看護コースとしている。

看護コースは、看護系の大学や専門学校を受験する生徒が多い現状を踏まえ、ミスマッチが起こらないように、看護職に向けたマインドを育てるのが目的のコースである。高等学校で看護の資格を取れる学校は少ない。中学校向けの説明会でも、このことについて説明している。

(岡崎氏) 過去には工業系の生徒を輩出していたと聞いているが、現在の教育課程が理系の志向を持った生徒が志願することを妨げていないか。

(教頭) 妨げにならないよう配慮している。教育課程上は、理系の大学等に進学するための多様な科目を設置している。但し、看護コースという名称については、今後、生徒の進路希望が変わってくるようであれば、名称等については検討をする想定。

2 協議事項

(1) 令和6年度使用教科書選定理由について

【説明事項】

- ・新学習指導要領が次年度からすべての学年に適用されるため、特に3年につい

て新規の選定を実施した。

- ・芸術Ⅲが必修になるためそれに伴い教科書が選定されている。
- ・保健体育は今年度と同じ教科書を使用するため空欄としている。

【質疑・応答】

(岡崎氏) 教科書選定は各学校で行うと思うが、そのプロセスについて説明を求める。

(首席) 選定委員会を設置し、各教科が選定したものを委員会で集約している。

(岡崎氏) 倫理がリストにないが。

(首席) 本校では実施しない。政治経済が必修。

(林氏) 2年で選んだコース選択は3年も継続か。

(首席) 2年次で選択したコースを3年で変更することはできない

(2) 令和5年度学校経営計画について(質疑・応答を含む)

【説明事項】

- ・めざす学校像について「確かな学力」「自己実現」「自律心」「思いやりのある人間性」「同僚性の高い学校組織の構築」を掲示。詳細は下記の通り。

「確かな学力」

- ・一人一台端末の活用促進
- ・海外とのウェブ交流、エクスチェンジの実施
- ・校内の学習発表会にて、英語で紹介する
- ・砂川支援学校での研修

「自己実現」

- ・学校説明会に加えて、昨年度初めて実施した夏季休業中の、地元小学生向けの実験教室を実施するなど、生徒主体の特色ある活動を実施し、それらを情報公開していく。

「人間性を育む」

- ・自分は大変な存在であるということを認識させるため、幼児や園児の避難訓練を受け入れるなど、年少者が本校で活動する機会を設け、生徒が「お兄ちゃんお姉ちゃん」と呼ばれ頼られる経験をさせ、自己有用感を育む。
- ・元JAICA職員を招いて難民キャンプについて講和していただく。

「同僚性の高い学校組織の構築」

- ・なにかミスがあれば、個人で抱え組むのではなく、組織で対応できる雰囲気構築。
- ・喫緊の課題として、働き方改革を実践する。超過時間が多い先生は管理職から声掛けを行っていく。また、月の超過勤務が80時間を1回でも超えたら校長と面談を行う。

【質疑・応答】

(岡崎氏) 一人一台端末の活用状況は。

(校長) 25%くらいの教職員が使用。3年のプレゼンテーションや生徒向けのアンケートの一部などで活用している。

(岡崎氏) HR教室で使用しているか。

(校長) 教室のプロジェクターで提示などで使用している。Wi-Fiは校内すべて繋がっている。プロジェクターは有線で接続している。

(岡崎氏) リアルタイムでつながれば、働き方改革にもつながるのでは。

(松原) インフラは整っているのではあとは設定が必要。

(上田氏) 確かな学力、基礎学力の指標が校内基準のみになっていないか。

(校長) 進路の面では、国公立大学進学や公務員就職は5年間出ていない。ベネッセの基礎学力テストを採用し、平均でD2程度。すぐに指導法を改善するには至っていないが、今後、徐々に変化させ、学習習慣や基礎学力の定着をめざしている。

(寺脇氏) 登下校時教員が立っているのは良い。生徒指導で心がけていることは。

(杉浦) 現状維持で精一杯。登校指導をしたほうが良いといった意見もあるが、教職員の負担や校内で問題事象が多発する現状を鑑みると厳しい。全教員が指導を行うことで、学習意欲のある生徒への支援が不十分となる状態にはしたくない。

(寺脇氏) みんなで相談して、全教員が協力して生徒指導できることを期待している。

(田中氏) やんちゃな生徒は減っている印象。夢を持っているが、現実的な対応ができない生徒が多い。直接的で一人ひとりに合わせた具体的な指導が必要。「こんな世界があるんだよ」という情報もあげてほしい。